

「あの当時の5ヶ月間を回想して」(抜粋) 茂内義雄

昭和27年11月11日 登小学校開校時の思い出

『登小学校開校20周年記念 あゆみ』掲載

(略) 昭和27年11月11日、6年生の時か、日吉・吉野・北登の3校から集合体をもって登小学校が誕生。自分の部落に待望の学校ができたという喜びは、私たち幼い胸の内にもおとなとはまた違った意味での伝わってくるものがあつたはず。(それがどのようなものか、いささか思い出すのも困難だが)。

ともかく新海、三井両先生のもとに、まるで谷間に灯をともしたように(当時のアルバムをひもといてみると「陸の孤島に学校」という新聞の切り抜きが印象的)産声をあげたのだ。

その1。体育館もなく、少々幅広く取った廊下で整列し、朝会をしていたように記憶する。私たち6年生は8名であつたが、多少とも最高学年という感覚が働いていたかどうか疑問である。おそらく「井の中の蛙」、お山の大将で暴れ回っていたことであろう。

その2。冬に向かつての遊び、戸外でのスキーもさることながら、どうも新しい木の香りがそうさせたのであろうか、「かくれんぼ」と称してトイレに隠れたり、屋根に上がったり、あるいは足下のおぼつかない卓球台でのピンポン、さらにはチョークで土俵を書き、投げたり投げ飛ばされたり、思い出は尽きない。

*注:「登小学校沿革史」には、昭和27年11月11日、落成式並びに開校式。小学校1学級、児童数30名、来賓30余名、父兄40名参列と記載。

開校時の新海校長の娘／新海みち子が寄せた文「開校20周年に寄せて」には、

「あの日は雪が降りました。伊藤さんの前から学校までの道にこれだけ人がたくさん通るのは最初で最後だろうな、と道を見つめながら父(注:新海校長)は感慨深げにつぶやいておりました」と記述。